

# 「3.11東日本大震災～我々に問いかけていること～」

教員・学生・市民の皆様 みんなで考えてみよう

(市民の皆様はご自由に聴講、参加下さい)

平成23年度後期 基盤教育・教養科目

日時 平成23年 10月3日(月)～2月6日(月) [毎週 月曜日：16時20分～17時50分]

場所 山形市小白川町1-4-12 山形大学 基盤教育1号館2階122講義室

講師 山形大学の教員14人

- (1) (10月3日) 3.11東日本大震災と向き合う大学 (履修ガイダンス)
- (2) (10月17日) 東北日本の構造発達と活断層に関わる話
- (3) (10月24日) 災害時の「心」の問題
- (4) (10月31日) 東日本大震災と災害医療
- (5) (11月7日) 地震・津波と建物被害
- (6) (11月14日) 描かれた災害
- (7) (11月21日) 震災と映像メディアの役割
- (8) (11月28日) 放射線の種類と特徴
- (9) (12月5日) 原子力発電と自然エネルギー
- (10) (12月12日) ゼオライト・原発事故の汚染水処理に関する話
- (11) (12月19日) 大震災の経験をふまえた防災教育の課題
- (12) (1月16日) 震災復興と政治の課題：脱「成長」の政治をめぐる
- (13) (1月23日) 震災復興の経済学
- (14) (1月30日) 震災復興と人文地理学
- (15) (2月6日) 3.11東日本大震災と向き合う (話し合い)

照会先 山形大学小白川キャンパス事務部教務課(基盤教育担当) 電話：023-628-4708

メール：kmkyom-you@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成23年度後期 基盤教育・教養科目（応用と学際）

「3.11東日本大震災～我々に問いかけていること～」の概要

（ねらい）2011年3月11日に起こった東日本大震災は日本社会に大きな衝撃を与え、人々の生活様式、精神構造、政治、経済等ほとんど全ての社会構造が大きく変容しようとしている。このような状況にあって、研究・教育を担当する大学の教員が、次代を担う若い学生に対し、大震災に関連して熱意を持って、しかし冷静にメッセージを伝え学生、市民と語り合うこと。		
【後 期】 10月3日（月）～2月6日（月）【毎週 月曜日 午後4時20分～5時50分】 基盤教育1号館2階122講義室		
開講月日	テーマと概要	担当教員
平成23年 10月3日	テーマ 3.11東日本大震災と向き合う大学	河村 新蔵 〔理学部〕 〔数学〕
	概要 (1)授業ガイダンス（履修方法、単位取得等について）(2)講義開講の目的。(3)学者、科学者の意見および社会から大学への要望などについて紹介。	
10月17日	テーマ 東北日本の構造発達と活断層に関わる話	八木 浩司 〔地域教育文化学部〕 〔地表・地形災害〕
	概要 東日本大震災による地形変化を紹介し、その地球科学的背景について東北日本の形成史と現在にまで継続する地殻変動の実態から解説する。次に我々の身のまわりに存在する見慣れた景観が、実は大地震の痕跡(活断層地形)であったりすることを山形盆地を例に紹介する。そして、我々の住む山形や日本が決して地殻変動から逃れられない場所であることを認識し、常に身の回りの景観を読み取ることで地盤災害を回避できる術を学ぶ。	
10月24日	テーマ 災害時の「心」の問題	藤岡 久美子 〔大学院教育実践研究科〕 〔発達心理学〕
	概要 自然災害の渦中には何を思いどう行動するのだろうか。また、災害体験後にどのような心理反応が起こるのだろうか。災害体験をいかに乗り越え、成長するのか。これらの点について心理学の知見を解説する。震災発生当初から重要性が指摘されている被災者の「心のケア」についても解説する。	
10月31日	テーマ 東日本大震災と災害医療	伊関 憲 〔医学部〕 〔救急医学〕
	概要 災害が発生するたびに、現場での医療が求められてきており、阪神・淡路大震災後より災害医療としてDMATなどの災害医療体制が整えられてきた。今回の震災においては急性期はDMAT、亜急性期は医療救護班が編制され現場での医療に当たった。今回の教訓を基に今後の災害医療体制を考えたい。	
11月7日	テーマ 地震・津波と建物被害	三辻 和弥 〔地域教育文化学部〕 〔建築構造力学〕
	概要 東日本大震災において地震や津波によって生じた建物被害について、地震観測記録や被害調査結果を基に分かりやすく解説する。具体的には、1) 仙台市中心部の建物被害、2) 造成住宅地における斜面崩壊などの宅地被害、3) 太平洋沿岸部での津波によって転倒した建物の被害、について話すとともに、建物の地震対策についても紹介する。	
11月14日	テーマ 描かれた災害	佐藤 琴 〔基盤教育院〕 〔美学・美術史〕
	概要 災害を描いた江戸時代の絵画をスライドで見ながら、当時の人々が災害とどのように向き合っていたのかを紹介し、現代との共通点と相違点を探る。	
11月21日	テーマ 震災と映像メディアの役割	阿部 宏慈 〔人文学部〕 〔フランス文学〕
	概要 震災は、映像メディアに対しても、大きな問いを投げかけた。あらゆる想定を超える災害の前に、映像は何をなしうるのか。何を見せ、何を見せざるべきか。余震と停電の暗闇の中で、携帯電話やカーナビの映像で目にした津波の恐怖。繰り返し映し出される福島第一原子力発電所の映像。震災と映像メディアの役割を考える。	
11月28日	テーマ 放射線の種類と特徴	佐々木 実 〔理学部〕 〔物理学〕
	概要 (1)放射線の種類、(2)それらの特徴、(3)原子核崩壊、(4)検出器、(5)放射能の単位、(6)人体等への影響などについて紹介。	
12月5日	テーマ 原子力発電と自然エネルギー	東山 禎夫 〔大学院理工学研究科〕 〔電気工学 電気機器工学〕
	概要 原子力発電に比べ太陽光や風力など再生可能エネルギーは、出力が小さく、気象条件に左右され、出力が一定しないなどの欠点はあるが、二酸化炭素の排出量は少なく、環境負荷は少ない。今後、原子力発電により作られる大量の電力に頼る電力大消費型社会から少ない電力による持続可能な社会への変換、および生活スタイルを再考する上で必要となる考え方を提示する。	
12月12日	テーマ ゼオライト・原発事故の汚染水処理に関する話	栗山 恭直 〔理学部〕 〔化学〕
	概要 汚染水処理で使用されているゼオライトについて学ぶ。ゼオライトはケイ素とアルミニウムの酸化物で天然に産出し、身の回りではペットの消臭や洗剤に使われている。特に、洗剤に使われる理由は今回の汚染水処理と同じ仕組みであり、ゼオライトの模型を作りながらその仕組みを理解する。	
12月19日	テーマ 大震災の経験をふまえた防災教育の課題	村山 良之 〔大学院教育実践研究科〕 〔地理学〕
	概要 構造物等による防災は技術的にも財政的にも限界が明らかで、防災教育の必要性が強く指摘されている。防災実践教育（狭義の防災教育）と防災基礎教育（災害のメカニズム）を繋げることで、市民の防災行動誘導の可能性が高まると考える。東日本大震災の経験から改めて、新たに明らかになった防災教育の課題について検討する。	
平成24年 1月16日	テーマ 震災復興と政治の課題：脱「成長」の政治をめぐる	北川 忠明 〔人文学部〕 〔政治学〕
	概要 今回の東北大震災と福島第一原発事故により、戦後日本が追求してきた「成長」の政治はいよいよ大転換を迫られている。原子力発電所がこの「成長」の政治を端的に表現するものであることは言うまでもないが、「成長」の政治の終焉は、「福利well-being」の政治へのシフトを促すとともに、「成長」の下支えとしての「東北」から独自の価値を持つ「東北」へのシフトを促すものである。本講義では、戦後日本政治における「東北」を振り返りつつ、震災復興を脱「成長」政治＝「福利」の政治の観点から考えることにしたい。	
1月23日	テーマ 震災復興の経済学	是川 晴彦 〔人文学部〕 〔理論経済学〕
	概要 東日本大震災では、これまで効率的だと考えられてきた経済システムの背後に存在する様々な課題が判明した。この講義では、震災からの復興における経済学的な課題について解説する。あわせて、今後の産業構造やまちづくりのあり方、そして、電力供給の問題についても経済学的な視点から考えていきたい。	
1月30日	テーマ 震災復興と人文地理学	岩鼻 通明 〔農学部〕 〔人文地理学・民俗学〕
	概要 東日本大震災では、地震災害のみならず、津波および原発災害が重大な影響を与えている。その復興には、単なる被災地の原風景の回復にとどまらず、コミュニティの回復が不可欠であり、政府や県が提案している高台案には大きな問題点が存在する。被災地住民の意見を尊重し、かつ国民に大きな負担をしないことのない復興プランを人文地理学の立場から提案したい。	
2月6日	テーマ 3.11東日本大震災と向き合う	河村 新蔵 他・担当教員有志
	概要 学生、市民からの書面、口頭での意見発表を募り、学生、市民、教員がディスカッションを行う。	